

研究科長・学部長就任にあたり

—科学と社会をつなぐ理学を—



研究科長・学部長 五神 真 (物理学専攻 教授)

この度、相原博昭先生の後任として、2014年度から理学系研究科長・理学部長を務めることになりました。理学系研究科・理学部は1877年(明治10年)の開設以来、自然科学の研究教育の中心として活動して参りました。この歴史ある部局の運営に携わる機会をいただきましたことは、身に余る光栄です。先達が培ってきた伝統を引き継ぎ、未来に向けたさらなる発展のために尽くしていきたいと思えます。構成員の皆様のご協力をお願い致します。

夜空の星はなぜ輝いているのか。生物はどのように生きているのか。私たちがとりまく自然は奥深く、そして不思議です。人々は古代からこの謎を解き明かすことに挑んできました。それは地道な作業の積み重ねですが、時として、自然はそれまでに見せたこともない姿を私たちに見せてくれることがあります。それは、人類の知の領域を広げることに関わった瞬間です。この興奮と感動こそ、私たちが理学の研究に駆り立てる原動力です。このような自由な発想と好奇心を起点とする探求は、理学の心であり、私たちが時代を超えて伝えていくべき最も大切なものです。

その一方で、科学技術は、現代社会を支える不可欠の要素です。20世紀には、科学はかつてない革新を遂げました。量子論、相対論は、物質や時空の概念そのものを一変させ、遺伝子の発見は、「生きる」仕組みに深く切り込む科学を創りました。これらの新しい科学が生み出した技術は、産業を変革し、人類に富をも

たらしました。同時に、人類の活動を飛躍的に拡大させ、地球そのものの存続を脅かし得るものとなりました。2011年3月11日の東日本大震災に伴い発生した福島原発事故は、その象徴といえます。

この大きな影響力を持つことになった科学研究において、知の探求に加え、その知を活用し、地球環境と調和する人類社会の構築に貢献することが求められています。たとえば医学や工学では、直面する課題に対し、その療法を迅速に見出し解決することが求められます。時には、喫緊の必要に迫られ、その原理解明を後回しにせざるを得ない場合もあります。しかし原理の不明な技術は、危うく安心して使うことはできません。技術を広く活用するためには、原理を明らかにし、それに信頼を与えることが必要です。本質をとことん突き詰めることは、理学の本領です。難題が山積する現代社会においてこそ、この理学の力を存分に発揮していくべきです。

科学が社会から信頼されるためには、私たちはプロとしての自覚と誠実さを持たねばなりません。熾烈な研究競争の中であってもこれは最優先されるべきであり、その大切さを次代を担う人々にしっかり伝えていかねばなりません。健全で誠実な科学研究を育む環境整備に努めます。

学問の最先端に国境はありません。理学系研究科・理学部は人類全体の共有財産とな

略歴

理学系研究科物理学専攻教授。専門は光量子物理学、光物性。1982年東京大学大学院理学系研究科修士修了、1985年理学博士(東京大学)。1998年工学系研究科教授。2010年より現職。2004-2005年総長特任補佐、2012-2014年東京大学副学長。2001年日本IBM科学賞、2010年松尾学術賞、2006年より日本学術会議連携会員。米国物理学会および米国光学会フェロー。

る新しい知を生みだし、発信し、世界中のトップ研究者が集うハブとなることを目指します。そこで有為な理学人材を育成し、彼らを国際社会に送り出し、人類社会が平和でかつ持続的に発展していくことに貢献したいと考えています。この目標に向かって、皆様と共に進んでいきたいと思っております。ぜひご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成26年度理学系研究科執行体制

研究科長・評議員	五神 真 (物理)
副研究科長・評議員	武田 洋幸 (生科)
副研究科長	山内 薫 (化学)
	星野 真弘 (地惑)
研究科長補佐	常行 真司 (物理)
	小澤 岳昌 (化学)
	久保 健雄 (生科)
	土居 守 (天文セ)
事務部長	大西 淳彦 (事務部)